

JAきたみらい外郭3組織 (青年部・女性部・フレミズ) 【農作業安全に関するグループワーク】

1. これまでの取り組み経過
(ホクレン北見支所 営農支援室 菅野)
2. 農作業安全についての情報提供
(一般社団法人 日本農業機械化協会 技術顧問 氣多様)
3. **グループワーク**
4. その他

今までの取組経過

⇒2022年6月23日に「JAきたみらい青年部44名」と、「ホクレン北見支所（施設資材課・生産資材課・農機燃料自動車課・畜産生産課・営農支援室）」と【**農作業安全**】をテーマに意見交換会を開催しました。また、農研機構様・(株)クボタ様にもWEBで参加頂きご意見を頂きました。



1. 農作業事故の現状について
2. オホーツク地区農作業安全の取り組み
3. 農作業事故の事例
4. あなたの農場は大丈夫？！

1. オホーツク地区農作業安全の取り組み (オホーツク地区農作業安全運動推進本部)

令和2年

「農作業事故ゼロ推進キャンペーン」

- ◆ 令和2～4年度の3ヵ年を「**農作業事故ゼロ推進キャンペーン**」と位置付け、管内各産地（JA）で積極的な啓発活動を実施することとする。
- ◆ 年度ごとの計画検討・結果検証を行い、3年後の『生産者自らが農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む』姿を目指す。

「オホーツク農作業安全フォーラム」

- ◆ 取組みをスタートさせるキックオフ的位置付けとして、令和2年の3月下旬に「**オホーツク農作業安全フォーラム**」を開催、今後の地区での取組みを告知するとともに、決意表明を行う。

▶▷▷ コロナ禍により3月のフォーラム開催は延期 → **8月下旬に規模縮小し開催**

R2. 8/26-27 「オホーツク農作業安全フォーラム」開催！

オホーツク地区が一丸となって、農作業安全に対する意識を高め、この地区から農作業事故を無くし、安全で安心できる農業を実現するため、次のとおり宣言します。

- 一、私たちは、日々の農作業の中に事故の危険性があることを理解し、日頃より事故防止を意識した農場づくりに努めます。
- 一、私たちは、事故を未然に防ぐため、農作業をするときは、安全確認を徹底します。
- 一、私たちは、自分だけでなく、家族や従業員の農作業事故を無くすため、農作業安全に向けた呼びかけ、農作業時の声かけを行います。
- 一、私たちは、オホーツクの農業を担う一員として、農作業安全に対する意識を強く持ち続け、農作業事故ゼロを目指します。

- ◆ 紋別市会場（8/26）、網走市会場（8/27）で開催、約130名を参集。



拍手により採択

令和3年

「ラジオCMを活用し呼びかけ」

- ◆ 令和3年度はオホーツク管内全14農協の職員44名が農作業事故防止への思いを込めた言葉を「ラジオCMを活用し呼びかけ」を7月～10月毎日行った。
- ◆ 8月以降は、青年部・女性部の役員などがラジオ番組に出演し、作業でのヒヤリ・ハッと体験や、日頃気を付けていることなどを話している。



啓発資材

「命を守る農業経営はすべてに最優先！
～農作業安全にGAPを取り入れよう～」

「家畜労働安全のすすめ」

「オホーツク農作業事故ゼロ宣言」

「家畜管理時の農作業事故は自身で防ごう！～現状と対策～」

家畜管理時の農作業事故は自身で防ごう！～現状と対策～

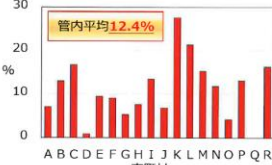
農業は危険な産業！？ オホーツク管内の家畜管理時の事故割合を知っていますか？



農業は全産業の死亡リスクの約11.6倍、建設業よりも約2.7倍の高さで推移しており、事故数を少しでも減らすことが求められています。

※このデータは、耕畜すべての農業者における件数を表しています

図 人口10万人に占める死亡事故件数の推移 (全国)



管内の家畜管理時の事故は12.4%となっており、約7戸に1人がケガをしていることになりました。また、怪我のうち22.8%が骨折、9.5%が入院しています。これは、病院にかかる時はケガの程度が重い場合が多いことを表しています。

図 管内畜産農場における最近3カ年の家畜管理時の事故発生割合

管内では約7戸に1人がケガしており、重傷割合も高い！

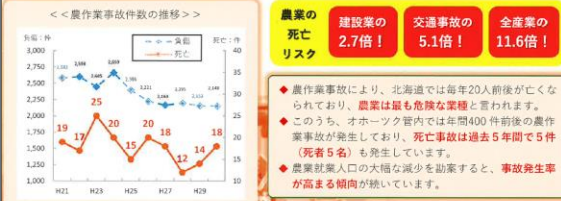
痛みに耐えながら仕事した結果、大ケガをしてしまった人もいたよ。大ケガになる前に「報告・連絡・相談」！

ケガしてから、対策を実施している農業者がほとんどです！
事故は「防げる」という考え方が最も大切です！
「事故を防ぐ」気持ちで、出来ることから始めましょう！

命を守る農業経営はすべてに最優先！ ～農作業安全にGAPを取り入れよう～

農作業事故は、事故を起こした本人が大きな被害を受けるとともに、その後の農業経営にとって大きな影響を及ぼします。安定した経営と家族の笑顔を守るために、GAP（農業生産工程管理）を取り入れた農作業安全に取り組みましょう。

<北海道内の農作業事故の現状>



農業の死亡リスク
建設業の2.7倍！
交通事故の5.1倍！
全産業の11.6倍！

◆農作業事故により、北海道では毎年20人前後が亡くなられており、農業は最も危険な業種と言われます。
◆このうち、オホーツク管内では年間400件前後の農作業事故が発生しており、死亡事故は過去5年間で5件（死者5名）も発生しています。
◆農業就業人口の大幅な減少を助産すると、事故発生率が高まる傾向が続いています。



<農作業事故による経営への影響>
農作業事故が起こると・・・医療費がかさんで家計を圧迫
骨折して入院したら退院まで約40万円かかる！（入院期間41.6日×1日の費用9,600円）
治療期間が長引くと・・・家族への負担増加 作業が遅れ作物の品質低下 経営規模の縮小・廃業も
農作業中の死亡事故を経験された農業経営者は3戸に1戸が事故後によむく病業している

家畜労働安全のすすめ

そもそも、人はいつ失敗するのか？

出来ること考えて、事故を防ぐ
データから見る、農作業事故の実態

家畜労働安全の最前線を巡る一現場ルポ

対策を知り、対策する

安全を購入する

オホーツク農作業事故ゼロ宣言

オホーツク地区では、令和2～4年度の3ヶ年を「農作業事故ゼロ推進キャンペーン」期間と位置付け、農業に係る全ての人々が、自ら農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む姿を目指します。

私たちの農作業安全行動が笑顔な食卓の一步となる

- 一、私たちは、日々の農作業の中に事故の危険性があることを理解し、日頃より事故防止を意識した農場づくりに努めます。
- 一、私たちは、事故を未然に防ぐため、農作業をするときは、安全確認を徹底します。
- 一、私たちは、自分だけでなく、家族や従業員の農作業事故を無くすため、農作業安全に向けた呼びかけ、農作業時の声かけを行います。
- 一、私たちは、オホーツクの農業を担う一員として、農作業安全に対する意識を強く持ち続け、農作業事故ゼロを目指します。

令和2年8月 オホーツク農作業安全フォーラム
オホーツク地区農作業安全運動推進本部

携帯用カード

「私の農作業安全宣言」

令和2年～3年

私の農作業安全宣言

私は、オホーツクの農業を担う一員として、農作業事故防止に努めます。

宣言日 令和2年 月 日 から1年間

氏名

農作業安全宣言の詳細はこちら！！

令和4年～

「生産者が自ら農作業安全について考え、声を上げ、 意識を持って取り組む」

- ◆ 青年部員の皆様が農作業安全を積極的に考え、取り組むきっかけを作っていきたいと考えている。

「啓発資材の作成」

- ◆ 株式会社クボタ様がオホーツク地区農作業安全運動推進本部の取り組みを知り、啓発資材の作成に尽力いただいている。
- ◆ 啓発資材（ステッカー・ポスター・デジタルフレーム）の作成を進めている。
- ◆ 場面に応じた活用をお願いしたい。

- ◆ ステッカー→トラクターや作業機等に張り付ける。



おかしいと思ったら
エンジンを停止

オホーツク 
農作業事故 **ゼロ** 宣言



ちゃんと **合図**
しっかり
指差し確認

オホーツク 
農作業事故 **ゼロ** 宣言



今日もシートベルトを
ありがとう

オホーツク 
農作業事故 **ゼロ** 宣言

- ◆ ポスター → 自宅や事務所・倉庫や休憩室などに張り付ける。

私が実践! みんなで推進! **安全アクション**

 <p>ヒヤリハットの 発見、共有、改善 をする</p>	 <p>「危険かも」 「ケガをするかも」 意識を常に持つ</p>	 <p>作業開始の 「合図」と「指差し確認」 をする</p>
 <p>機械に不具合が 生じたら、 必ずエンジンを停止する</p>	 <p>事故防止の アイデアを出した人を 思いっきり褒める</p>	 <p>シートベルトの 着用忘れを見かけたら、 声をかける</p>

◆ デジタルフレーム

(PC上のファイルとして)

→ 家族・地域・組織で思いを共有するため、自分の写真を入れて、コメントを記入する。

完成後、壁に掲示したり、広報誌に記載して活用する。

私、かける、シートベルト

トラクタ乗車時のシートベルトの着用は事故ゼロに向けた1丁目の1番地です。



× シートベルト = 家族の願い



× シートベルト = ずーっと農業



× シートベルト = 子供との約束



× シートベルト = 当り前の習慣



× シートベルト = オホーツクの常識

オホーツク地域では、農業に係わる全ての人が、自ら農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む姿を目指します。



オホーツク
農作業事故_{ゼロ}宣言

マトリクスを利用した研修をSTARTしましょう！！

目標(まず)

日常化(繰り返す)

食事・睡眠・排泄と一緒に！
ありがとう・おはようと一緒に！！
子供教育と一緒に！！

正しい姿を見せ真似してもらうことと一緒に！！！！

【訓練・癖付け必要】

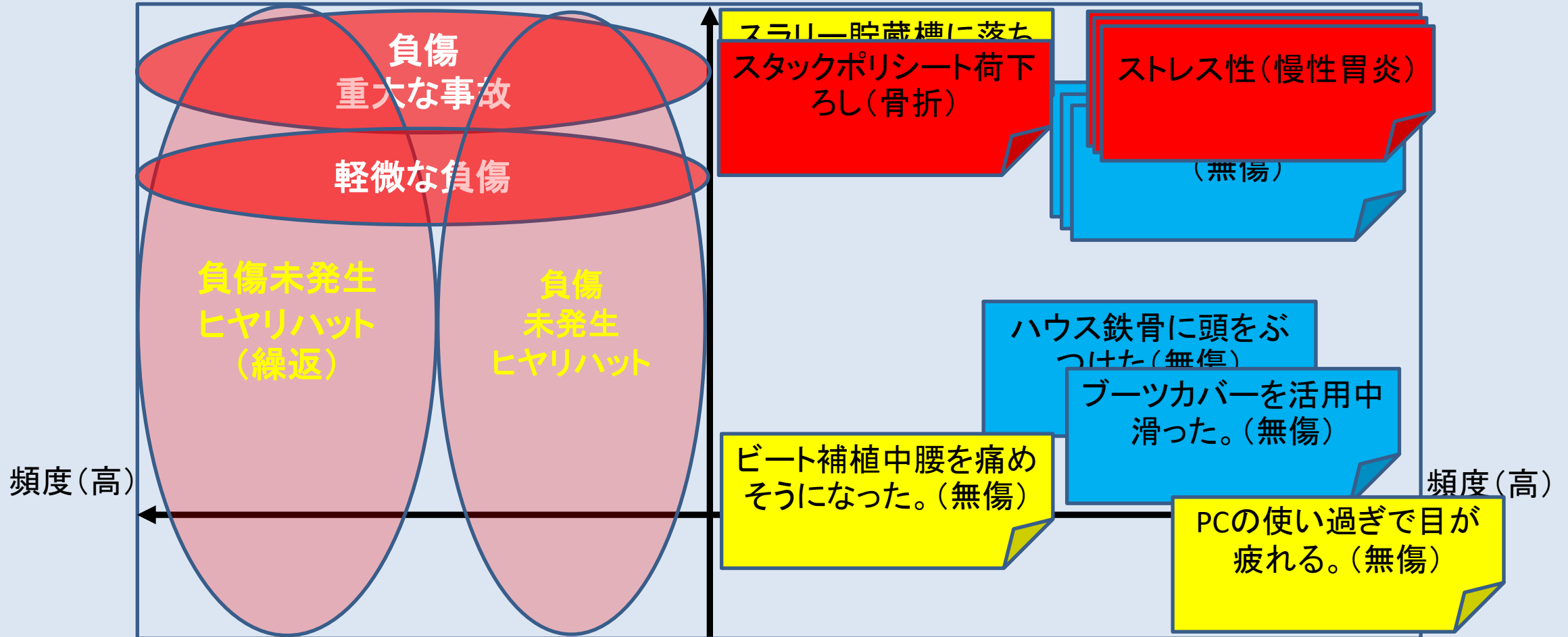
最終目標 【 農作業事故ゼロ 】

=【安定した経営基盤・家族を守ることに繋げる】

マトリクスイメージ

予算
←必要 不必要→

影響度(高)



1年以内に改善⇒ 【例え】ケガはしていないが、前から危険だと思っていた。

マトリクスイメージ

予算
←必要 不必要→

影響度(高)

「畑作」や「酪農畜産」の混在OK

【ヒヤリハットの例】
⇒倉庫内で頭をぶつけそうになった。(無傷)
⇒倉庫内の階段を踏み外しそうになった。(無傷)
⇒機械に挟まれそうになった。(無傷)
⇒ハシゴの作業中に落ちそうになった。(無傷)
⇒作業中に牛に挟まれた。(無傷)
⇒作業機の上(後)で機会が急に動いた。(無傷) など

【事件事例】
⇒倉庫内で頭をぶつけた。(打撲)
⇒倉庫内の階段を踏み外した。(打撲+切傷)
⇒機械に挟まれた。(機械停止中、無傷)
⇒ハシゴの上で作業中に落下した。(骨盤)
⇒リフトの爪に乗って、高所作業中落下。(足骨折)
⇒作業中に牛に足踏まれた。(骨折)
⇒駆動部分に衣服が巻き込まれた(機械可動、無傷) など

頻度(高)
実体験でなくても「聞いた話」や「見た話し」などでもOK

1年以内に改善⇒ 【例え】ケガはしていないが、前から危険だと思っていた。

グループワーク①

準備するもの

: 付箋(色3種)・模造紙・ペン・農作業安全に関する意識

グループ作り

: 青年部・女性部・フレミズ

: 人数は5～6名程度(名簿通り)

作業時間

: 40分(20分書き出し+20分貼り付け)

作業内容

- ①グループで、「ヒヤリハット」「事故事例」を付箋に書き出す。
 - ※「聞いた話」や「見たこと」でも構いません。
 - ※とにかく思いっただけ書き出す。
- ②各自、模造紙上に付箋を貼る。
- ③全ての付箋を張り付け後、グループ内で調整する。

ビート補植中腰を痛め
そうになった。(無傷)

ヒヤリハット

ハウス鉄骨に頭をぶ
つけた(無傷)

事故事例(無傷)

スタックポリシート荷下
ろし(骨折)

事故事例(負傷)

グループ

私、かける、シートベルト

トラクタ乗車時のシートベルトの着用は事故ゼロに向けた1丁目の1番地です。

私、かける、シートベルト

トラクタ乗車時のシートベルトの着用は事故ゼロに向けた1丁目の1番地です。

あなたのお写真をここに貼ります

× シートベルト =

あなたのお写真をここに貼ります

× シートベルト =

あなたのお写真をここに貼ります

× シートベルト =

あなたのお写真をここに貼ります

× シートベルト =

あなたのお写真をここに貼ります

× シートベルト =

オホーツク地域では、農業に係わる全ての人が、自ら農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む姿を目指します。



オホーツク
農作業事故^{ゼロ}宣言

準備する
作業時間
内容

青年部

× シートベルト =

女性部

× シートベルト =

フレミズ

× シートベルト =

J A

× シートベルト =

など

× シートベルト =

オホーツク地域では、農業に係わる全ての人が、自ら農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む姿を目指します。



オホーツク
農作業事故^{ゼロ}宣言

青年部の今後の活動として・・・

【取り組み・アクション】

グループワーク①(令和5年)

- マトリクス(ヒヤリハット・事故事例)の集計。
- テーマごとに地域へ周知。(啓発資材の作成検討)

グループワーク②(令和4～5年)

- デジタルフレームをJA広報誌で紹介。
- 様々な活用を模索。アイデアがあれば募集中。

デジタルフレームの活用について

デジタルフレームを作成



広報誌・ホームページ・インスタ・Facebook等で紹介。

自宅PC・スマホ・タブレットの待ち受けに活用。

例: 写真のグループを変更

: 家族・組織・JA(青年部・女性部・フレミズ・グループ・部長・課長・担当 など)

自分なりの活用方法を見つけ出す。

菅野の事例

お父さんの仕事で危険なこと。

子供として危ないと感じたこと。

⇒家族で共有し、冬休みの宿題として検討。

私、かける、シートベルト

菅野家

トラクタ乗車時のシートベルトの着用は事故ゼロに向けた1丁目の1番地です。



× シートベルト = 絶対に守る!



× シートベルト = ひそかな楽しみ



× シートベルト = いつまでも現役



× シートベルト = 20年前の約束



× シートベルト = 帰る場所・責任

オホーツク地域では、農業に係わる全ての人が、自ら農作業安全について考え、声を上げ、意識を持って取り組む姿を目指します。



オホーツク
農作業事故ゼロ宣言

リスクマトリクス作成後の流れ

菅野からのお願い(提案)

効果的な方法を考える。(例)

- : 作業風景写真の撮影・指摘。
- : ヒヤリハット場所の訪問・指摘。
- : 安全道場の設置。(青年部組織が自ら作成)
- : 安全に関する取り組みを話し合う。自慢大会
- : マトリクスの項目(目線)を変えてみる。
- : チェックリストを作成する。
- : GIS(地図データ)への活用(場所・内容の共有) など

ヒヤリハット・事故事例を出し合う

マトリクスを広報誌などを活用し、地域に周知。

改善されているか訪問・巡回

ヒヤリハット・事故事例の改善作成。

改善集(ヒヤリハット・事故事例)を広報誌などを活用し、地域に周知。

改善されているか訪問・巡回

JA共済活用実態を確認・労災申請件数や項目

農業者の意識改善

次のステップへ

受け身ではいけない！！

【安心・安全な農業(営農)のため取り組みを継続】

※青年部の活動を広げる⇒女性部・フレミズへ

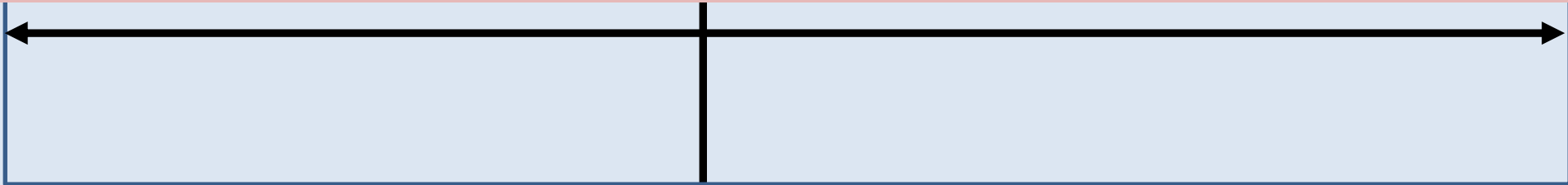
視点を変えマトリクスを作る

影響度(高)



【項目:例】

- ⇒ 季節・作業内容・作業機(春作業・管理作業・収穫作業・メンテナンス期間)
- ⇒ 地区・年齢(青年部・女性部・フレミズ・各作業部会 他)
- ⇒ 品目(麦・馬鈴しょ・ビート 他)
- ⇒ 場所(玄関・トラクター・作業機・倉庫 他)
- ⇒ 業態別(個人・法人 他)
- ⇒ 属性(酪農畜産・畑作 他)



1年以内に改善⇒ 【例え】ケガはしていないが、前から危険だと思っていた。

菅野が個人的
に皆さんに伝
えたいこと

☆人間（脳）は同時に2つのことを処理不可能。

⇒事前に計画を立て、事前に不安要素を取り除く。

☆何事にも「かち」しれないを徹底。

レガをする。

日常化（繰り返す）

【訓練・癖付け必要】

農作業安全は
一丁目一番地

⇒お金を使わなくても改善できることが沢山ある。

生産者が自らのこととして農作業安全について考え、
農作業事故ゼロに向けて取り組んで欲しい。

考える ☆ 行動する ☆ 伝える ☆ 継続